

平成 25 年度鳥取大学機器・分析技術研究会参加報告

永田陽子

工学系技術支援室 分析物質技術系

はじめに

平成 25 年 9 月 12 日-13 日に開催された鳥取大学技術部主催の平成 25 年度機器・分析技術研究会に参加したので報告する。本会は、鳥取大学鳥取キャンパスを会場として参加者 213 名が登録し、主に国公立大学、高専の技術職員、教務職員が参加して行われた。今回の機器・分析技術研究会では、国立大学の独立行政法人化 10 年目の節目を迎えることから特別企画として「安全衛生セッション ～法人化 10 年目を迎えて～」についての口頭発表およびパネルディスカッションが行われた。これは国立大学が平成 16 年度から法人化に移行し、それまでに適応されてきた安全衛生の主たる準拠法令が人事院規則から労働安全衛生法へと変更され、大学が事業所として位置づけられたことに伴い安全衛生という概念が大学の運営に影響を与えることとなった。その移行に当たって実際に行った安全衛生についての討論、他機関の様子、多岐にわたる取り組み、動向についての情報交換を行うことが安全衛生セッションの目的であった。

講演発表の内容

特別企画「安全衛生セッション～法人化 10 年目を迎えて～」が行われ、防災・減災活動の取り組みなど有意義な情報が得られた。このセッションでは、機器及び研究室などでの安全管理、安全教育、事例研究、経験談、ヒヤリハット、独立法人化に伴い適用された労働安全衛生法に基づく安全衛生活動やその取り組みなどの安全衛生に関する口頭発表、および東日本大震災に絡んだ地震対策などについての口頭発表およびパネルディスカッションが行われた。これらについては、各大学における安全衛生への取り組みなどの情報を得ることができた。特に東日本大震災において、実際の震災が発生した直後の行動から始まり、どのような段階を経て通常業務に復帰したのか、また装置の被害状況、装置の更新、その後の耐震についてなど、具体的な情報の講演であり、参加者にとって大変参考になったと考える。東北大学では、建築診断士による診断を震災後の建物へ最初に入れる安全基準にしたという貴重な情報も得た。ただし、他大学では、建築診断士の有資格者が学内に居ない、又は震災の際には他の業務のため当てに出来ないとの情報もあり、実際の運用に関しては討議が必要であると感じた。講演は、1 日目午後、2 日目午前に口頭発表が行われた。パネルディスカッションは口頭発表者がそのままディスカッションに参加する形式で行われた。それ以外の発表は全てポスター形式にて行われた。ポスター発表は 1 日目の午後、2 日目の午後に行われ、各々 2 分間のプレゼンテーションの後、ポスター会場に移動して行われた。ポスター発表においても安全衛生を意識した内容が多かった。特に学生実験における安全管理についての発表は自身も学生実験に関わっているため得ることが多かった。今回の機器・分析技術研究会では、口頭発表が 6 件、ポスターの発表件数が 74 件であった。因みに、平成 24 年の大分大学では、ポスターが 54 件、口頭が 2 会場に分かれて 27 件あり、平成 23 年の信州大学は、ポスターが 56 件、口頭が 2 会場に分かれて 27 件（内

5 件は東日本大震災に関するもの)であった。本研究会では口頭発表の件数が少ないと感じたが、今回の機器分析技術研究会の特色は、安全衛生について特化し、パネルディスカッションに時間をあてるというものであり、運営側の裁量で自由があって良いと思った。

タイムスケジュール

鳥取大学 機器・分析技術研究会は以下のようなタイムスケジュールで開催された。

第一日目

13:00- 開会式

13:15- 特別講演 地盤工学としての地盤の液状化現象—原因・被害・対策—

14:15- 次期開催工からのアナウンス、諸連絡

平成 26 年度北海道大学総合技術研究会の紹介

平成 26 年度岩手大学実験実習技術研究会の紹介

14:45- ポスタープレビュー (No.1-32)

16:20- ポスター 発表

第二日目

9:20- 特別企画「安全衛生セッション ～法人化 10 年目を迎えて～」

13:00- ポスタープレビュー (No.33-74)

15:00- ポスター発表

今回、ユニークだったのは閉会式を行わなかったことである。これはポスター発表会場と開会式を行った口頭発表会場とに距離があり、閉会式のために口頭発表会場へ戻るよりもポスター発表での質疑応答の時間を取るための配慮とのことであった。

地域代表者会議について

地域代表者会議は機器分析技術研究会開始に先駆けて 1 日目午前より鳥取大学にて行われた。

1. 2012 年度開催機関大分大学から報告があった。
2. 2013 年度開催機関鳥取大学からの報告があり、安全衛生セッションを設置したこと、その他は全てポスター発表とし 2 分/1 名のプレビュータイムを設けたこと、無線 LAN の対応をしたこと、コンベンションの費用として地域助成金の補助があったことなどが報告された。
3. 北海道大学より平成 26 年 9 月 4、5 日の日程を予定しており、12 分科会を予定している。機器・分析は第 8 分科会で開催することが報告された。
4. 山形大学より 2015 年度開催予定機関の準備状況について報告があった。開催日程は平成 27 年 9 月第 2 週 (9 月 10 日(木), 11 日(金)) を予定しており、山形大学工学部米沢市キャンパスで開催することが報告された。
5. 2016 年に名古屋大学で開催されることが連絡された。
6. 機器・分析技術研究会の運営方針についてについて討議された。

最後に

鳥取大学機器分析技術研究会の運営及び技術部についての見学の機会を与您頂き、工学部技術部に感謝します。